

# 米軍基地もオスプレイもいららない

沖縄 辺野古 / 東京 横田からのレポート

## 建設断念まで続ける

### 座り込みを連続1500日超

沖縄県は8月31日、名護市辺野古の埋め立て承認を撤回。これを受けた小野寺防衛相は「法的な措置を取る」と明言しました。翁長知事の急逝を受けた知事選挙でも辺野古新基地建設は大きな争点です。安保破棄中央実行委員会の辺野古連帯と沖縄統一地方選支援行動に参加した東京土建本部代表がレポートします。



監視船に追われながら辺野古沖を視察 (左から3人目が石川常任中執)



後藤さん

防衛省は8月22日、10月1日から横田基地に米空軍のCV22オスプレイを正式配備すると発表しました。4月5日に横田基地に初飛来したCV22オスプレイですが、6月23日に三度目の飛来をして以降は、横田基地にとどまり、これまで約350回の離着陸を行ない、基地周辺を中心に夜間も含めて旋廻飛行訓練などを繰り返してきています。CV22は正式配備を待たず、すでに横田基地を拠点にして日本の空をわがもの顔で飛びまわっているのが実態です。

## 重大事故の危険増す

### 横田基地へオスプレイ配備

墜落・不時着といった事故・トラブルが相次いでいる米軍輸送機オスプレイ。10月からの横田基地正式配備で基地周辺の安全はどうなるのか。横田基地問題を考える会代表世話人の後藤太刀味さんに寄稿をお願いしました。(見出しは編集部)

いを示すプラカードや横断幕が揺れていました。

## 自然と命を破壊 基地強化の犠牲

古埋め立て工事の承認を撤回し、翁長氏の遺志通り、国へ対立する姿勢を示しました。我々一団は翌9月1日、米軍キャンプ・シュワブ前の座り込み抗議行動に参加しました。11月予定の県知事選挙が、前倒しで9月30日投票となる中、集会には県知事候補者で、新基地建設に反対表明している玉城デニー氏をはじめ、月内に行なわれる市町村議会選挙等の候補者数名から激励の連帯挨拶がありました。その日は24時間監視を始め1518日目で、基地建設断念まで続けるという力強い看板が掲げられていました。集会には県民ら800人が駆け付け、基地建設反対や、沖縄が背負ってきた犠牲、理不尽な扱いへの怒り等、県民らの強い思いを示すプラカードや横断幕が揺れていました。

湾側に活断層がある疑い、海底の軟弱地盤、基地近隣にある沖縄高専学校(寮に5000人の学生が居住)や久辺小学校・中学校等の建物が米国家安全基準の高さ制限に抵触するなど問題が山積しています。エメラルド色の美しい海と周辺の小島が作る景色はまさに楽園で、辺野古沖には5300種もの海洋生物が生き、260余りの絶滅危惧種が生息。その中にジュゴンも含まれます。浅瀬の護岸工事はほぼ終わり、ブロックにより何十メートルも囲われ、一部痛ましい景観となり、環境にも影響が出ています。個人調査をしているジュゴン1頭は数カ月姿が見えませんが、絶滅危惧種のオキナワハマサンゴを船の上から確認しました。400年も自然豊かな海で生きているサンゴが多く

います。美しい自然、命を守らず、汚い土砂で破壊しようとする行為は土砂よりも薄汚れた心の人間達により行なわれます。そしてそれは米国の戦争のための犠牲です。湾岸工事は中断しています。米兵用福利施設の建物の建設工事は進行。翁長元県知事や反対行動を継続している地元県民らの力で、湾岸工事の工期は遅れていきます。しかし、国は工事遅延の賠償額は1日2000万円だと県に脅しをかけています。



抗議行動に800人が参加

県知事は新基地建設を阻止する権限を持ちます。政府言いの知事では戦争する国になりえません。建設承認しない知事の誕生こそ、非戦国家への大きな一歩となります。石川常任は、座り込み集会に参加し、「1500日以上も24時間の監視を大雨でも、酷暑でも続けている地元の人達がいる。私達は東京から反対の声を発するべき。辺野古の海岸はみたこともない美しい海。土砂で埋め立てることほとんどない自然破壊だ。埋め立て承認撤回の翌日に、臨時制限水域内に入れ、視察できたことは幸運だった。観光客数で沖縄はハワイを10万人も上回っている。基地を新たに建設すれば観光にも影響が出る。辺野古の海を破壊し基地を作るわけにはいかない」と熱い思いを語りました。



横田基地を離陸する CV22 オスプレイ (羽村平和委員会提供)

在日米軍はこの4月初め突然に、横田基地へのCV22オスプレイ配備を1年以上も前倒しすると発表。当面5機、その後数年間で段階的に増やし、最終的に10機配備するという計画です。10月1日から正式配備すると発表しましたが、CV22は正式配備を待たず、すでに横田基地を拠点にして日本の空をわがもの顔で飛びまわっているのが実態です。間違いありません。

## 地位協定見直し 勝手放題を規制

2012年、自衛隊の航空総隊指令部が横田基地に移駐したあたりから、基地機能の強化が格段に進んでいます。CV22オスプレイは、特殊作戦部隊の輸送を主要な任務としています。米軍の特殊作戦とは、主に夜間、低空で敵地の奥深くに潜入して破壊工作や要人の暗殺や拉致、空爆の誘導などをひそかに行なうことです。米軍の先制攻撃や侵略戦争の先兵としての役割を担うものです。特殊作戦部隊の輸送という任務を確実に遂行するために、CV22オスプレイの乗員には高い操縦能力が必要とされています。CV22オスプレイの重大事故が海兵隊のMV22オスプレイより高いのは乗員が厳しい条件のもとで難しい訓練や作戦展開を行なうからです。米軍は先にCV22オスプレイが配備されれば、横田基地とその周辺で夜間飛行訓練、低空飛行訓練、編隊飛行訓練、パラシュートでの人員降下訓練・物資投下訓練などを行なうと発表しています。そうなるれば、夜間や早朝の騒音が一層ひどくなるばかりか、私たちは墜落などの重大事故の危険と隣り合わせの生活を強いられることとなります。1960年に締結された「日米地位協定」があり、米軍の勝手放題な訓練や演習を規制できないからです。全国知事会は7月に「地位協定抜本見直し」を決議しています。基地周辺では、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」「横田基地問題を考える会」などが、沖縄の闘いと連帯しながら、オスプレイの横田基地配備・飛来に反対する活動を粘り強く展開しています。この10月には、基地近くで「横田基地もいらぬ市民交流会会」や「日本のどこにもオスプレイはいらない東京大集会」が相次いで開催される予定です。必ず成功させたいものです。